

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

【概況】

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行った。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班は、一部の研究班を除き通常開催となった。

資料収集・資料公開活動では、令和4年5月に「禅文化財 COLLECTION」サイトを開設、インターネットを通じて閲覧・活用するための情報発信を開始した。寺宝調査活動は、大本山南禅寺（京都）と大本山永源寺（滋賀）の調査・整理が終了し、データの納品を行った。所蔵図書のオンライン検索については、データ整理及びシステム開発を進め、令和5年4月に「蔵書 SEARCH」サイトを開設した。特別展覧会は、「見性寺」展を開催した。

広報・普及活動では、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行については、『季刊 禅文化』をはじめ、『ウルス・アップの近世西洋仏教発見史』、『2023年禅語こよみ』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行った。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務をはじめ各派宗務本所や寺院からの委託出版などを行った。

－目次－

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動	2
〈2〉 資料収集・資料公開活動	4
〈3〉 広報・普及活動	5

II. 収益・共益等事業

〈1〉 ソフト開発・販売等事業	8
〈2〉 共益事業	9

財務諸表	10～20
------	-------

I. 禅文化普及事業(公益目的事業)

〈1〉調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

※各研究会の概要は7頁に記載。

① 唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は卷十三招慶和尚章(全四十八則)の第十五則より第四十六則の計三十二則を読み進んだ。開催日は、2022年4/22、5/13、5/27、6/10、6/24、7/8、7/22、10/14、10/28、11/11、12/9、12/23、2023年1/13、1/27、2/24、3/10。

また、『禅文化研究所紀要』第36号(2023年5月発行)に「『祖堂集』卷一〇譯注(四)」を発表した。

講師：衣川賢次(禅文化研究所講師)

参加者：川島常明(大通院住職)／松岡由香子(山水庵庵主)／久保護(禅文化研究所研究員)／鈴木洋保(花園大学非常勤講師)／鈴木史己(南山大学講師)／土屋昌明(専修大学教授)／藤田和敏(相国寺寺史編纂室研究員)／王珂(花園大学博士課程、留学生)／葛研(花園大学修士課程、中国留学生)／宋力(花園大学博士課程、中国留学生)

② 「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は休会した。

③ 「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度も、コロナ禍により開催できなかった。

④ 俗語言研究会〔担当 衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主(経費負担を含む)となって復刊する。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。

『俗語言研究』第七号(復刊第二号)投稿論文

刑東風「錢謙益與憨山德清」(査読：伊吹 敦)・邢東風「資料紹介『佛日圓明大師別岸和尚語録』」(査読：戒法)・衣川賢次「《趙州録》譯注(二)」(査読：(土屋太祐)・衣川賢次「項楚「三半句詩話」日譯」(査読：西口芳男)・衣川賢次「書評 馮國棟『景德傳燈録研究』」(査読：鈴木史己)・Jason Protass 蒲傑聖「南宋〈妙堪和尚偈頌〉校録與研究」(査読：邢東風)・高婉瑜《臺灣禪籍語言研究概況》(査読：鈴木史己)・李艷琴《禪宗文獻字迷詞語考辨》(査読：土屋太祐)・周正《禪籍異形詞性論》(査読：齋藤智寛)

発刊が遅れている。

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。今年度は活動なし。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

令和4年度の報告としては、三つの研究会（大蔵会、西田哲学研究会、西谷研究会）のうち、西田哲学研究会は、参加者も比較的多いので、オンラインにて開催した。20数名で、ほぼ3ヶ月ごとに「一般者の自覚的体系」の読解と討議を行った。西谷研究会は、若手研究者の希望もあり、令和4年11月6日に京都工芸繊維大学にて、新しい研究会を開催し、読解テキストも「大谷講義」から「宗教哲学序論」に変更して、新たな出発を開始した(参加者18名)。大蔵会は休会した。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

① 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道・藤田琢司〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行う。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。

今年度は、仙台伊達家の歴史書である『伊達出自世次考』『伊達正統世次考』の翻刻と訓読を終了した。

② 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

江戸時代前期に卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行う。本書は日本の禅僧・居士ら約千人の伝記および機縁語句などを録したもので、江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができる。しかし全四十巻という大部に加え、難解な禅語の知識が不可欠であったためか、従来訓読等が刊行されたことはなかった。昨年度は諸事情から作業を休止したが、各方面から刊行を望む声が寄せられたため、今年度から作業を再開した。

5. マルチメディア研究班

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。令和4年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2023年禅語こよみ」（大分自性寺所蔵品より）や「ウルス・アップの近世西洋仏教発見史」などを刊行した。

また、花園大学仏教学科と『宗学概論』改訂版発行の検討を行った。

6. 人材の発掘及び研究発表の場の提供

令和4年11月24日に、花園大学と臨濟禅の研究や臨濟禅の研究者育成を主な目的とする包括的連携に関する協定を結んだ。今後、協力しながら人材の発掘を目指す。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

臨濟宗・黄檗宗寺院において大切に遺されてきた禅仏教や寺院に関する文化財を、デジタル化して広く国内外に紹介する事業。令和4年5月に「禅文化財 COLLECTION」サイトを開設、インターネットを通じて、「いつでも」「どこでも」「誰でも」「自由に」「無料で」、閲覧・活用するための情報発信を開始した。また、文化財のデジタル画像は、高精細な画像ビューアで見ることが可能。

① デジタルアーカイブス（禅文化財目録整備事業）

臨濟宗・黄檗宗寺院のうち、デジタル化を希望する寺院に出向くなどをして調査・撮影を行ない、デジタルコンテンツを作成する。これらのデータの公開については、所内にてシステム開発を進め、令和4年5月31日に「禅文化財 COLLECTION」サイトを開設して、当法人が有する学術資源80点（令和4年度末現在）をオンライン公開しており、今年度も継続する。これまでのユーザー数（訪問者数）は2,665、ページビュー数（閲覧数）は17,572。

② 寺宝調査活動

①に連携し、各寺院が所蔵する宝物・什物をデジタルアーカイブとして管理するためのデータベースソフトウェアを内部で開発して販売しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行った寺院には、このソフトウェアにデータを入力した状態で納品している。令和4年度は、大本山南禅寺（京都）と大本山永源寺（滋賀）の調査・整理が終了し、データの納品を行った。

2. 資料の収集・整理・公開等

① 資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行った。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。

所蔵図書のオンライン検索については、データ整理及びシステム開発を進め、令和5年4月に一般図書を対象とした「蔵書 SEARCH」サイトを開設した（現在の検索可能

点数は11,126点)。また、それに合わせて、当法人が有する和漢古書102点をデジタル化してオンライン公開し、利用の便を向上させた。

「特別展覧会」(花園大学歴史博物館と共催)

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行う墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

今年度は、「見性宗般100年遠諱記念・熊本地震復興祈念 見性寺」展を、令和4年10月31日から12月24日まで開催した。

③ 黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。今年度の追加登録はなし。

④ 問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行った回答には以下のような質問が寄せられた。

黄檗三筆の扁額・聯の読みと意味／黄庭堅の碑文について(以上、研究者) 佛心寺の所在地と、いつ頃どのような経緯で廃寺となったか／『八重葎 卷之三』の諸本について／仙厓の逸話の出典について(以上、個人)／臨済宗全般について／「神儒三法合図」の所蔵先(以上、マスコミ)／禅門陀羅尼について／寺歴の調べ方について／大燈国師遺誠の異本について(以上、寺院)ほか、墨蹟や落款の読みと解説など10数件、偈頌の作り方などが数件。その他電話による質問もあり。

〈3〉広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

- 264号 特集「禅と観音」
- 265号 特集「僊厓 一洒脱と禅一」
- 266号 特集「禅門の入院(じゅえん)」
- 267号 特集「仏教における「食」考察」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数2,489名。

なお、243号より花園会館と南禅会館の客室に常備いただいている。

2. 研究成果の刊行

○日本禅宗史・禅語録の成果

- ①『一絲和尚語録』(令和4年10月刊行)

初版 300部 永源寺中興開山一絲文守の語録を訓注。

○マルチメディア研究班の成果

- ①2023年禅語こよみ 大分自性寺所蔵品より (令和4年9月刊行)
初版 42,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ②『ウルス・アップの近世西洋仏教発見史』 (令和4年11月刊行)
初版 500部 西洋人の仏教発見史を独自の視点で紐解く。

○重版

- ①『中国禅思想史』2刷 100部
- ②『新修禅家書鑑』4刷 100部
- ③『臨済宗檀信徒經典』14刷 3,000部
- ④『江湖法式梵唄抄 改編版』2刷 500部
- ⑤『禅門陀羅尼の世界』3刷 100部

3. 公開講義

『趙州録』講義〔講師：衣川賢次〕

趙州從諗和尚（778～897）の問答の記録である『趙州録』を読むことを通して、唐代禅の対話精神にふれ、唐代禅思想表現の精華を知るための講義。一般社会人や花園大学院生らが参加し、毎週火曜日に開催した。

4. ホームページの運営とコンテンツの更新

① 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの更新

ホームページのコンテンツ更新および連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録などを行った。
ホームページの年間のユーザー数（訪問者数）は49,328、ページビュー数（閲覧数）は137,048。

② 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行った。毎月更新している禅語の解説には、禅文化研究所発行の書籍から選出している。

5. 公開講演会等

① 公開講演会

今年度は開催せず。

② 教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

寺院の公益性が求められるなか、僧侶も一般の方も一緒になって学ぶ場として開講。令和4年度は、12月3日に隠元禅師350年大遠諱年にちなみ、大本山萬福寺・宝蔵院 顕彰特別参拝を開催した。参加人数は22名。

6. 広報・普及

研究所の各種事業や刊行物の案内を、ダイレクトメールをはじめ、ブログ、メールマガジンの発行、あるいはTwitterやFacebookなどを利用して広範囲に普及した。また公式のInstagramも設定し、禅語と写真をあわせて配信を行っている。

【ダイレクトメール】令和4年10月12日発送 7,250通（臨黄寺院・顧客）

注文件数 363 回収率 5.0% 売上 425万4千円（経費 76万5千円）

【メールマガジン】8回配信（VOL 87～94）現在の登録者数 2,299

【LINE】不定期配信（月4～5回）現在の登録者数 279

【SNS（Twitter／Instagram／Facebook）】現在のフォロワー数 3,743

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／MIHO美術館（滋賀）／湯木美術館（大阪）

※中国禅宗史・禅語録研究班の概要

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行われている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと52年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に50年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第8冊、2003年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

②「神会語録」研究会

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

③「景德伝灯録」研究会

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

Ⅱ. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上の広告等を行った。Windows11にも対応済み。「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップについては、サポート体制や開発期間などの判断情報を得るまで開発を凍結した。

2. オーダー型管理システムの構築

以下の構築済みシステムの機能追加や運用をサポートした。

東福寺派管理システム	南禅寺派管理システム
建長寺派管理システム	曹洞宗宗務所管理システム
天龍寺派管理システム	妙心寺派布教師会管理システム
佛通寺派管理システム	真言宗管理システム
青蓮院管理システム	永保寺墓地管理システム
藏春寺霊園管理システム	妙心寺派白隠さんの会

現在、臨黄 15 派のうち 6 本山は研究所のシステム（「擔雪Ⅱ」含む）を利用中。

3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の販売

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版を発売中。

4. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅関係の出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。

主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、
「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「坐禅和
讃講話（英語版）」（南太平洋友好協会）等。

〈2〉共益事業

1. 臨黄合議所事務局

- 年間会議
 - 令和4年4月21日（木）理事会（黄檗宗務本院）
 - 令和4年6月10日（金）総会（黄檗宗務本院）
 - 令和4年9月28日（水）理事会（黄檗宗務本院）
 - 令和5年1月18日（水）理事会（京都市内ホテル）
- 教学部長会は1回開催
- 臨済宗黄檗宗宗勢調査委員会は9回開催
- 臨済宗黄檗宗宗勢調査の実施（全国の臨黄寺院に調査票を配布）
- 第17回臨黄教化研究会（令和5年2月16日・17日）
- 「臨黄会報」の発行（57号・58号）
- 臨黄互助会の促進
- 会議等の事務処理

2. 寺院委託出版等

- ① 『岫雲抄』岫雲会有志編／令和5年1月刊行
- ② 『正受老人遠諱記念図録』妙心寺聖澤派／令和5年1月刊行
- ③ 『花園中学高校用臨済禅ハンドブック』重版

その他、以下の訓読及び編集業務を行った。

- 『恵林寺歴代住職頂相集』恵林寺（山梨県）／令和5年4月刊行
- 『伊達家の歴史』満勝寺（宮城県）／令和7年刊行予定
- 『梅天禅師法語』正法寺（大阪府）／令和7年刊行予定